

【質問】生まれてきた子どもの先天性の病気を調べる検査があると聞きました。詳しく教えてください。

(35歳、女性)

新生児マススクリーニング検査

【回答】お母さん、お父さんになる人には、妊娠・出産・育児への心配、悩みがたくさんあることと思います。これを軽減する方策の一つとして、赤ちゃんが生まれるときに持っているかもしれない病気を早期に見つけるための検査が、全国で公的事業として行われています。「新生児マススクリーニング検査」といいます。同検査は1977年に始まりました。先天性代謝異常症や内分泌疾患のうち、症状が出

る前に発見、治療することで、障害の予防または軽減が期待できる病気について、その有無を調べます。当初は五つの病気だけが対象でしたが、2013年に新しい検査方法が導入されてからは多くの病気を発見できるようになり、現在に至って

です。検査は、生まれた病院や産婦人科医院で、生後4日目もしくは5日目に、かかとから数滴の血液をろ紙に採取し、県健康事業団で解析します。血管からの採血でなく、ごく少量の血液ですので、赤ちゃんの負担にはなりません。任意検査で

専門家の意見を踏まえ、精密検査医療機関への紹介などの事後対応を行うことになっています。これらの病気に加え、昨年7月からは有料のオプショナルスクリーニング検査として、新たに七つの病気(重症複合免疫不全症、脊

先天性の病気を発見

生後4、5日目に血液採取



います。本県では現在、20を超える病気が検査対象

ですが、本県では採血料を除く全額を県が負担し、ほぼ100%の赤ちゃんが受けています。検査結果は病院、産婦人科医院からご家族に伝えられます。異常の可能性が疑われる場合は長崎大医学部小児科に直接報告され、

髄性筋萎縮症、ライソゾーム病(5疾患)についても検査できるようになりました。

この事業により、これまで多くの子どもたちが知的障害、心身障害あるいは小児死亡から免れてきています。子どもたちの健全な成長のため、ご両親、ご家族の不安を取り除くために、欠くことができない検査です。生まれてくる全ての子どもがこの検査を受けることで、健やかな成長につながることを願ってやみません。

出産、子育てについて、もし不安があれば自分たちだけで抱え込まず、産婦人科、小児科、かかりつけの先生などに遠慮せず相談してみてください。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。